

第 1 章 事業の目的及び内容

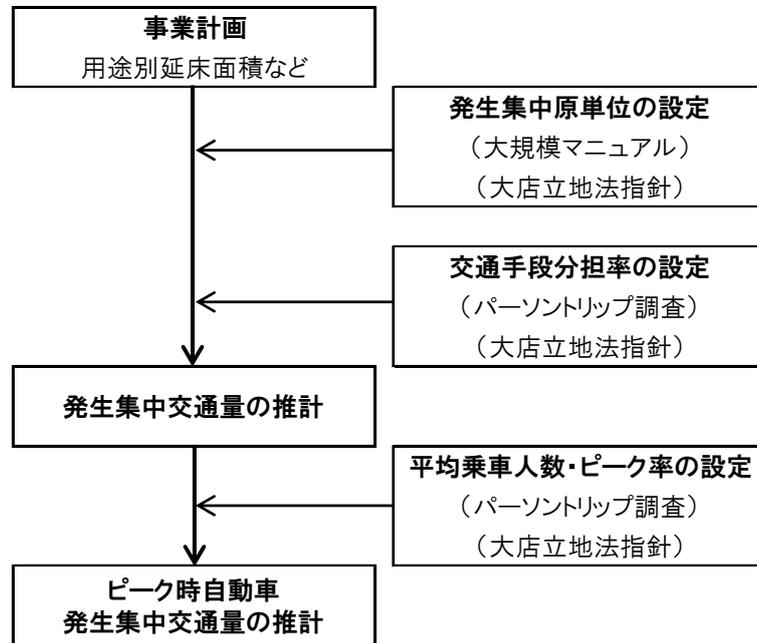
1.1 施設計画

1.2 工事計画

第1章 事業の目的及び内容

1.1 施設計画

(1) 発生集中交通量の算定方法



注) 大規模マニュアル：「大規模開発地区関連交通計画マニュアル（改訂版）」
 （平成26年6月、国土交通省）
 大店立地法指針：「大規模小売店舗を設置する者が配慮すべき事項に関する指針」
 （平成19年2月、経済産業省告示第16号）

図1.1-1 発生集中交通量の算定フロー

(2) 発生集中交通量

表1.1-1 発生（集中）交通量

単位：台/日

用途	平日	休日
オフィス	1,000	—
住宅	300	350
ホテル	150	150
商業施設	461	805
合計	1,911	1,305

表1.1-2(1) 発生（集中）交通量（平日）

建築諸元	X1	オフィス	42,500㎡	
発生交通量 《オフィス》	A	発生集中原単位	2,475人T.E./ha・日	3,300×0.75×1.0
	B	交通手段分担率(自動車)	26.2%	H30パーソントリップ調査(平日、出勤・配達・打合せなど発生集中)
	C	台換算係数	1.3人/台	事務所
	D	ピーク率	9.0%	自動車(平日)・事務所・周辺部・一般型
	E	発生集中交通量	2,120台T.E./日	$X1 \times A \times B \div C$
	F	発生交通量	1,000台/日	$E \div 2$ (100単位に切り捨て)
	G	発生交通量(ピーク時)	90台/h	$F \times D$

建築諸元	X2	住宅	63,400㎡	
発生交通量 《住宅》	A	発生集中原単位	700人T.E./ha・日	住宅
	B	交通手段分担率(自動車)	20.6%	H30パーソントリップ調査(平日、買い物・娯楽・私用など発生集中)
	C	台換算係数	1.4人/台	住宅(平日)
	D	ピーク時間集中度	6.0%	自動車(平日)・住宅(午後)
	E	発生集中交通量	600台/日	$X2 \times A \times B \div C$ (100単位に切り捨て)
	F	発生交通量	300台/日	$E \div 2$
	G	発生交通量(ピーク時)	18台/h	$F \times D$

建築諸元	X3	ホテル	17,600㎡	
発生交通量 《ホテル》	A	発生集中原単位	1,300人T.E./ha・日	参考値
	B	交通手段分担率(自動車)	32.9%	H30パーソントリップ調査(休日、宿泊など発生集中)
	C	台換算係数	2.4人/台	商業施設と同等と仮定
	D	ピーク時間集中度	14.4%	商業施設(休日)と同等と仮定
	E	発生集中交通量	300台/日	$X3 \times A \times B \div C$ (100単位に切り捨て)
	F	発生交通量	150台/日	$E \div 2$
	G	発生交通量(ピーク時)	22台/h	$F \times D$

建築諸元	XΣ	商業施設(北・南・駐車場棟)	31,300㎡	
	S1	店舗面積	18,800㎡	建築延床面積の60%と想定
発生交通量 《商業施設》	b	日來客数原単位	643人/千㎡	立地法原単位(休日)×57.2%(H10大店立地法基礎調査(駐車場利用台数)の平休比)
	c	ピーク率	14.4%	
	d	自動車分担率	9.3%	$7.5 + 0.045L$ (L: 駅からの距離40m) ※最も近い駐車場棟までの距離
	e	平均乗車人員	2.4人/台	$1.5 + 0.05S$ (店舗面積S1: 10千㎡以上 20千㎡未満)
	f	併設施設による比率	1.0倍	併設施設の割合: 0~20%
	g1	発生交通量(物販店舗)	461台/日	$S1 \times A \times C \div D$
	g2	発生交通量(併設施設)	0台/日	
	g	発生交通量	461台/日	$S1 \times A \times C \div D \times E$
	h	発生交通量(ピーク時)	66台/h	$F \times B$

表1.1-2(2) 発生（集中）交通量（休日）

建築諸元	X1	住宅	63,400㎡	
発生交通量 《住宅》	A	発生集中原単位	700人T.E/ha・日	住宅
	B	交通手段分担率(自動車)	22.3%	H30パーソントリップ調査(休日、買い物・娯楽・私用など発生集中)
	C	台換算係数	1.4人/台	住宅(平日)を代用
	D	ピーク時間集中度	8.0%	自動車(休日)・住宅(午後)
	E	発生集中交通量	700台/日	$X1 \times A \times B \div C$ (100単位に切り捨て)
	F	発生交通量	350台/日	$E \div 2$
	G	発生交通量(ピーク時)	28台/h	$F \times D$

建築諸元	X2	ホテル	17,600㎡	
発生交通量 《ホテル》	A	発生集中原単位	1,300人T.E/ha・日	参考値
	B	交通手段分担率(自動車)	41.8%	H30パーソントリップ調査(休日、宿泊など発生集中)
	C	台換算係数	2.4人/台	商業施設と同等と仮定
	D	ピーク時間集中度	14.4%	商業施設(休日)と同等と仮定
	E	発生集中交通量	300台/日	$X2 \times A \times B \div C$ (100単位に切り捨て)
	F	発生交通量	150台/日	$E \div 2$
	G	発生交通量(ピーク時)	22台/h	$F \times D$

建築諸元	XΣ	商業施設(北・南・駐車場棟)	31,300㎡	
	S1	店舗面積	18,800㎡	建築延床面積の60%と想定
発生交通量 《商業施設》	A	店舗面積当たり日來客数原単位	1,124人/千㎡	1500-20S(S<20 人口40万人以上/商業地域)
	B	ピーク率	14.4%	
	C	自動車分担率	9.3%	$7.5 + 0.045L$ (L: 駅からの距離40m) ※最も近い駐車場棟までの距離
	D	平均乗車人員	2.4人/台	$1.5 + 0.05S$ (店舗面積S1: 10千㎡以上 20千㎡未満)
	E	併設施設による比率	1.0倍	併設施設の割合: 0~20%
	e1	発生交通量(物販店舗)	805台/日	$S1 \times A \times C \div D$
	e2	発生交通量(併設施設)	0台/日	
	F	発生交通量	805台/日	$S1 \times A \times C \div D \times E$
	G	発生交通量(ピーク時)	116台/h	$F \times B$

